

「日々の理科」(第2612号) 2021,-9,-7

「北海道の実験(2)」

お茶の水女子大学附属小学校教諭

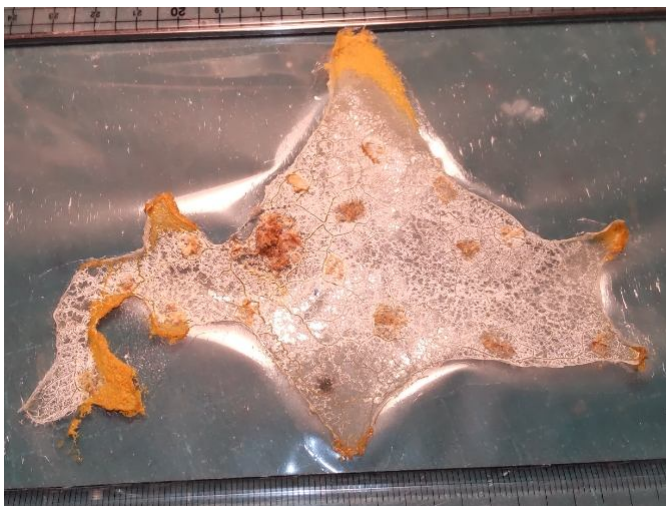
お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーションセンター研究員

田中 千尋 Chihiro Tanaka

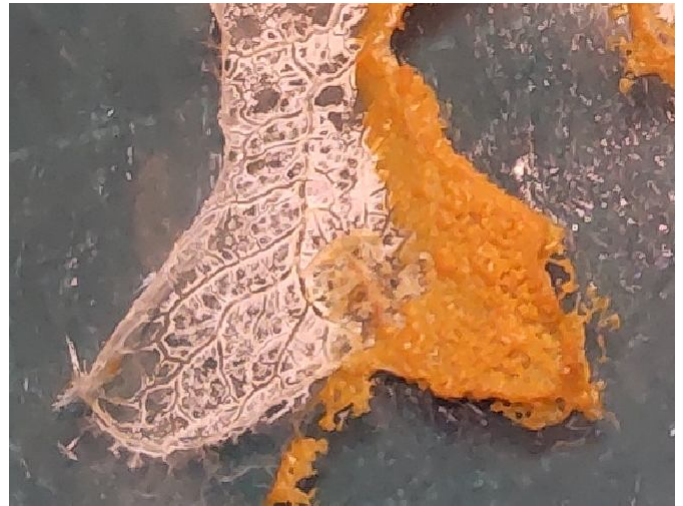
北海道の形に切り取った寒天培地での変形体移動実験は、なかなか面白かった。しかし、当初期待したような、現実に近い鉄道網はなかなか形成されない。



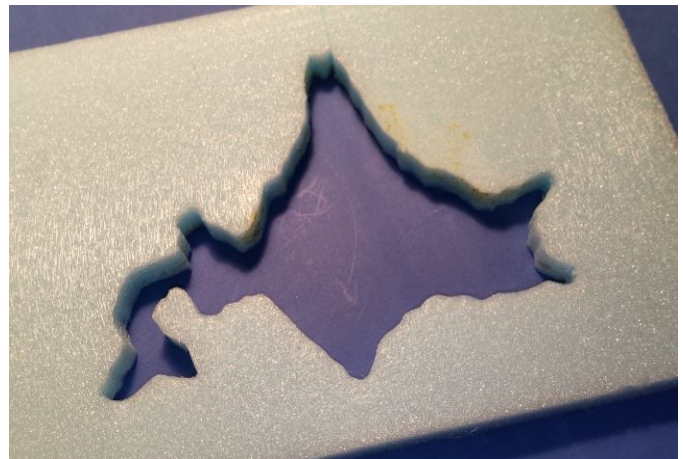
確かに北海道全域に「管のネットワーク」は形成されているが、太い管と細い管の区別があまりなく、網目状に全道を覆ってしまった。すでに寒天培地からの水分の蒸発が始まり、稚内やえりも岬は「沈没」の兆しが見えている。何度か霧吹きで水分を補給してみたが、一様な網目構造は改善されなかった。



最終的には、北海道は完全に干からびてしまった。寒天培地が干からびると、半透明の薄いシート状になることもわかった。もしかしたら、適当な立体の型があれば「北海道型の寒天の素」を大量に作っておけるかも知れない。



しかもこれは、管のネットワークの最後の姿を記憶したまま干からびている。変形体は最終的に、渡島半島、積丹半島、宗谷岬、知床岬などの「先端部」に集中して、菌核を形成することもわかった。



これで終わらせては面白くない。私はスチロールカッター(発熱式)で、スチレンボードを北海道型に切り取り、そこに寒天を流し込んでみることにした。



今度は寒天培地が分厚いので、水分もかなり保持できるだろう。やはり主要都市に餌のオートミールを置き、札幌に変形体塊を置いた。